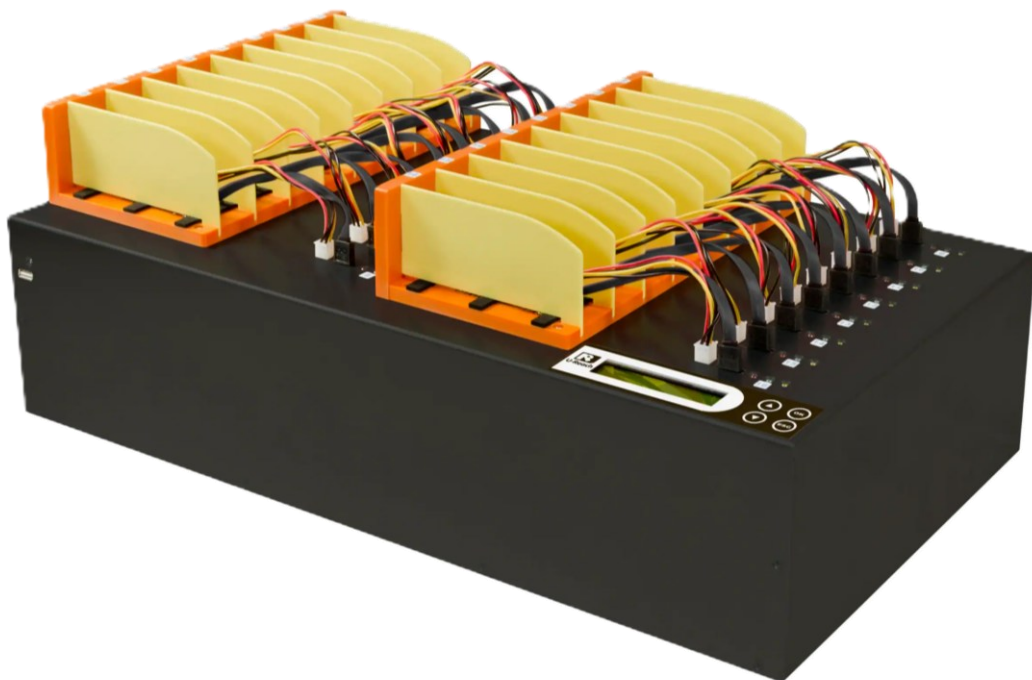




MT/MTC シリーズ IDE/SATA デュプリケーター/ 消去装置

取扱説明書

v A.05



目次

MT/MTCV vA.05

製品に関する免責事項	3
製品保証について	3
著作権侵害に関する声明	3
はじめに.....	4
注意記号について.....	5
機能一覧表.....	6
製品概要.....	12
機能説明.....	15
1. コピー (Copy)	15
2. コンペア (Compare)	16
3. コピー+コンペア (Copy+Compare)	16
4. ショウキヨ (Erase)	16
5. ユーティリティ (Utilities)	19
6. セッテイ (Setup)	20
7. ログマネージャー (Log Manager)	33
PC モニタリング機能について	36
PC モニタリング機能の使い方	37
LV07H プログラムを用いたログレポートの出力	38

製品に関する免責事項

弊社は、偶発的または派生的な損害について、一切責任を負いません。これには、U-Reach 製品の使用による財産の損害、時間やデータの損失、または製品の誤動作や故障に起因するその他の損害を含みますが、これらに限定されません。また、これには、(1)提供された資料への依存、(2)製品の交換費用、(3)使用、データまたは利益の損失、(4)遅延または事業の中断、(5)U-Reach 製品の使用や全体の性能に起因または関連する法的責任の原則、または、サービスの遅延またはサービス提供能力の欠如によって生じる法的責任の原則に起因する損害も含みますが、これらに限定されません。

弊社は、すべての製品の正確な動作を保証するために尽力しています。ただし、お客様は、U-Reach 製品の性能がお客様の品質要件を満たしていることを確認する責任を負っています。また、製品および/またはソフトウェアプログラムの誤った操作やハードウェアの問題により、データの損失、フォーマット不良、データ読み込みエラーが発生する可能性があることをあらかじめご了承ください。弊社は、お客様が確認された問題を、保証範囲内であれば無料で、それ以外の場合は作業時間と必要部品に基づき有料で、解決または修理するよう最善を尽くします。

仕様および機能は、予告または義務なく変更される場合があります。

製品保証について

弊社は、ケーブル、アダプター、その他の消耗品を除くすべての製品に対して、基本的な1年間の部品および修理保証を提供します。任意の延長保証も有料で利用可能です。弊社が定めた製品保守サポート期間中、電子メールによるサポートが利用可能です。

保証についてはお客様が製品を購入した市場地域に限定して定義されています。

著作権侵害に関する声明

弊社は、お客様が U-Reach 製品を用いて行った著作権侵害、または製品の誤用について一切の責任を負いません。音声や動画、ソフトウェア等、あらゆる形のデータを著作権者の許可なしでコピーすることは違法です。お客様は、著作権所有者の法律に基づく著作権が確実に尊重されることに単独の責任を負うものとします。

はじめに

重要なお知らせ

- 操作する前に、マニュアル全文にしっかりと目を通してください。
- ソースデバイスが正しく対応しており、正常に動作していることを確認してください。
- データの整合性を保証するために、ソース（コピー元）とターゲット（コピー先）の容量を同じにすることをお勧めします。
- コピー+コンペア機能を使用することで、より確実にコピーを行うことができます。
- 本取扱説明書に従わなかったために発生した損害は、保証の対象外となります。
- 使用しない時は、機器を安全に保管し、お子様の手が届かないようにしてください。
- ソケットを交換する前に、デュプリケーターの電源を切ってください。
- ファームウェアの更新中は、絶対に電源を切らないでください。
- 承認済みの安定した電源のみを使用してください。
- 電源には過負荷保護が備わっています。過負荷でシャットダウンした場合は、電源コードを抜いて、2分間放電させてください。
- 本製品は、清潔で、乾燥した、埃のない、換気の良い場所でのみ使用してください。液体や異物がデュプリケーター内部に入り込むと重大な損傷を与える可能性があります。
- 動作中に機器が熱くなるのはよくあることで、特に問題はありません。
- 使用中に機器を設置場所から動かしたり、HDDを取り外したりしないでください。
- 静電気によりコピーエラーが発生する場合があります。デュプリケーターの操作中は、機器の使用環境に注意してください。静電気除去装置を購入すると、静電気ショックを予防することができます。
- 高速タスクの実行中はデバイスが高温になることがあります。デバイスを取り扱う際は、火傷を防ぐために保護手袋を着用してください。
- ESD（静電気放電）を防ぐために、デュプリケーターと作業者を適切に接地してください。

注意記号について

使用前に遵守すべき特別な項目、手順、または注意事項

注記

関連するデuplicケータ操作、特別な詳細、効果的にご使用頂くためのヒントや提案を示しています。

警告

必ず遵守すべき手順および注意事項を示しています。

機能一覧表

機能	説明
1. コピー (Copy)	ソースポートに接続したコピー元デバイスからコピー先デバイスへデータのコピーを行います。 ※「6.2 Copy Area」には5つのコピーモードがあります。
2. コンペア (Compare)	ソースポートに接続したコピー元デバイスのデータを、コピー先デバイスとビット単位で比較検証します。
3. コピー& コンペア (Copy+ Compare)	まず、ソースポートに接続したコピー元デバイスのデータを、コピー先デバイスにコピーします。そして、コピーが完了すると、自動的に引き続きコンペアを行います。
4. ショウキョ (Erase)	4.1 クイック消去 (Quick Erase) デバイスのインデックステーブルのみを消去します。
	4.2 フル消去 (Full Erase) ※ NIST Clear レベル NIST 800-88 規格に準拠し、デバイス全体を消去します。
	4.3 DoD 消去 (DoD Erase) DoD 5220.22-M 規格に準拠して、デバイス全体を3回連続で上書き消去します。
	4.4 DoD 消去+コンペア (DoD EraseComp) まず、DoD 5220.22-M 規格に準拠してデバイス全体を3回連続で上書き消去します。そして、消去が完了すると、上書きされたランダム値が正しく書き込まれているか検証を行います。
	4.5 7回消去 (7-Pass Erase) DoD 5220.22-M(ECE)規格に準拠し、デバイスを7回消去します。
	4.6 セキュア消去 (Secure Erase) ※ NIST Purge レベル NIST 800-88 規格に準拠して、ユーザーアクセス不可能な保護領域を含む SSD のすべての領域を、完全に消去します。
	4.7 エンハンスドセキュア消去 (Enhanced Secure Erase) この機能に対応した SSD を消去します。
	4.8 米陸軍 AR380-19 消去 (US Army AR 380-19) 米陸軍 AR380-19 方式でデバイス全体を3回連続で上書き消去します。

5. ユーティリティ (Utilities)	5.1 デバイス情報の表示 (Show Device Info) デバイスの型番、ファームウェアバージョン、容量など基本情報を表示します。	
	5.2 システムアップデート (System Update) USBポート経由でシステムファームウェアをアップデートします。	
	5.3 システム情報の表示 (System Info) デュプリケーター本体のコントローラー、型番、ファームウェアバージョンなどのシステム情報を表示します。	
	5.4 HDD 検証 (Verify HDD) 読み取り書き込みによりデバイスをスキャンして、不良セクタを検出します。	
	5.5 HDD 厳密検証 (Strict Verify HDD) 読み取り書き込みを2回おこないデバイスをスキャンして、不良セクタを検出します。	
6. セッテイ (Setup)	6.1 スタートアップメニュー (Start-up Menu) 電源投入直後最初に表示される機能メニューを設定します。	
	6.2 コピー モード (Copy Area)	システム&ファイル (System and Files) 自動的にコピー元データのフォーマットを分析し、データ領域のみをコピーします。標準フォーマットのみ対応しています。
		全パーティション (All Partitions) 領域が確保されているすべてのパーティションをコピーします。
		HDD 全体 (Whole HDD) 未割り当て領域、空き領域を含むデバイスのすべての領域をビット単位でコピーします。
		パーセンテージ (%) (Percentage) コピー元デバイスからコピーすべき範囲の開始位置と終了位置をそれぞれパーセンテージで指定してコピーします。
		カスタムデータコピー (Custom Data Copy) コピー前にデバイス全体をスキャンし、データ領域のみをコピーします。フォーマットによる制限はありません。

6.3 GPT バックアップ領域のコピー (Copy GPT Backup Area) 末尾に作られている GPT バックアップ領域をコピー対象にするのか選択します。			
6.4 不良セクタのスキップ (Skip Bad Sectors) コピー/コンペア中にスキップするコピー/コンペア元デバイスの不良セクタ数を設定します。			
6.5 転送速度下限値設定 (Minimum Speed) ユーザーが、コピー/コンペア/消去中における転送速度下限値を設定したり無効にしたりすることができます。			
6.6 コピー元デバイス転送速度下限値設定 (Check Source Minimum Speed) 6.5 Minimum Speed で設定した転送速度下限値設定を、ソースポートのコピー元デバイスにも適用するのか選択します。			
6.7 言語 (Language) LCD ディスプレイの表示言語を設定します。 英語、日本語、スペイン語から選択できます。			
6.8 ショウサイセッテイ (Advanced Setup)	6.8.1 不明なフォーマット (Unknown Format)	不明なフォーマットをコピー (Copy Unknown)	
		不明なフォーマットをスキップ (Skip Unknown)	
	6.8.2 ソースポートの消去 (Erase Source Port)	無効 (Disabled)	ソースポートに接続されたコピー元デバイスは消去しません。
		有効 (Enabled)	ソースポートに接続されたコピー元デバイスを消去します。
	6.8.3 消去パターン (Erase Pattern)	1 バイト (One Byte)	ランダムに生成された 1 バイト長のデータで繰り返し上書きされます。
ビッグランダムデータ (Big Random Data)		ランダムに生成された大きなデータで繰り返し上書きされます。	
6.8.4 消去時の不良セクタスキップ (Skip Bad Sector at Erase)			

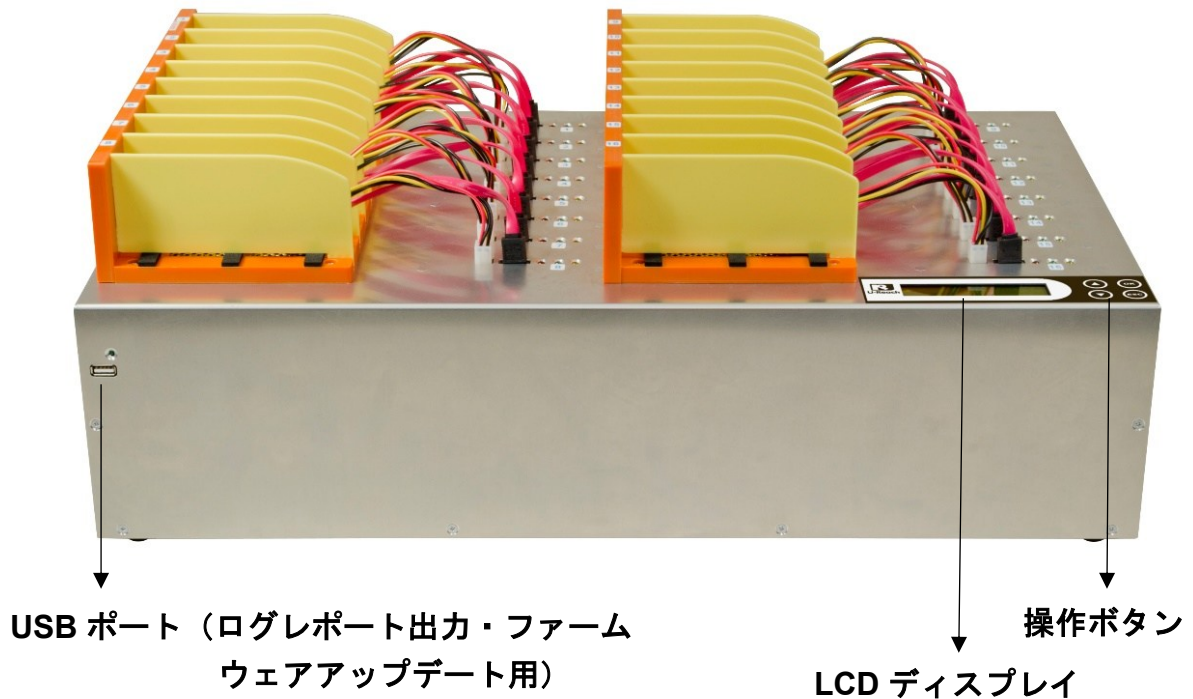
	<p>6.8.5 処理開始待機時間 (Device Power-up) OK ボタンを押してからコピー・消去などの処理が開始されるまでの待機時間を設定します。</p>	
<p>6.8.6 キーロック設定 (Scroll Lock)</p>	<p>↑ ↓ ボタンをロックしない (Do NOT Lock Key)</p> <p>↑ ↓ ボタンをロックする (Do Lock Key) ↑ ↓ ボタンのみが無効になります。設定を有効にするにはシステムを再起動します。</p>	
<p>6.8.7 HPA 領域コピーモード (HPA Copy Mode)</p>	<p>HPA 領域をコピーしない (Do Not Copy HPA)</p>	<p>コピー先デバイスの HPA 領域を維持 (Keep Target HPA)</p> <p>コピー先デバイスの HPA 領域を消去 (Clear Target HPA)</p>
	<p>HPA 領域の設定のみコピー (Setting Target HPA)</p>	
	<p>HPA 領域の設定とデータをコピー (Copy and Setting)</p>	
<p>6.8.8 消去時に HPA 領域を削除 (Clear HPA at Erase)</p>	<p>消去時に HPA 領域を削除 (Clear HPA Setting)</p> <p>消去時に HPA 領域を維持 (Keep HPA Setting)</p>	
	<p>6.8.9 消去後に消去済マークを追加 (Mark after ERASE) 消去処理完了後に、デバイスに消去済マークを追加します。</p>	
	<p>6.8.10 転送速度 (Transfer Rate) UDMA2~UDMA7 の中から適切な転送速度を選択します。UDMA7 が最も高速です。</p>	

	6.8.11 HDD モーター停止待機時間 (Stop Motor Time) 処理完了から HDD のモーター停止を待って完了画面を表示するまでの、待機時間を設定します。	
	6.8.12 コマンドあたりの転送バイト数 (Bytes Per Cmd) デュプリケータと HDD の間でのデータ転送における、1回のコマンドあたりの転送サイズを設定します。512Byte~16MB の範囲で値を設定できます。	
	6.8.13 コピー後デバイス署名を削除 (Delete Device Signature After Copy)	いいえ (No)
		はい (Yes) コピー先デバイスにディスク署名をコピーしません。
	6.8.14 コピー前にコピー先 SSD を消去 (Clean SSD before Copy)	いいえ (No) デフォルト設定は「いいえ」(No)です。
はい (Yes)		
6.9 デフォルトに戻す (Restore Defaults) すべての設定項目を工場出荷時設定に戻します。		
7. ログ マネージャ (Log Manager)	7.1 今日のログレポート (Today's Log Report) 当日のログレポートを出力します。	
	7.2 最近のログレポート (Recent Log Report) 直近のログレポートを出力します。	
	7.3 カスタムログレポート (Custom Log Report) 指定した期間のログレポートを出力します。	
	7.4 ショウサイキノウ (Advanced Function) デフォルトパスワード : 123456	7.4.1 すべてのログを消去 (Clear ALL Log) パスワードを入力してすべてのログ記録を消去します。
		7.4.2 パスワードセットアップ (Setup Password) ログを消去するためのパスワードを設定します。
7.4.3 本体設定日時の調整 (Adjust Clock) 本体に設定されている日時を調整します。		

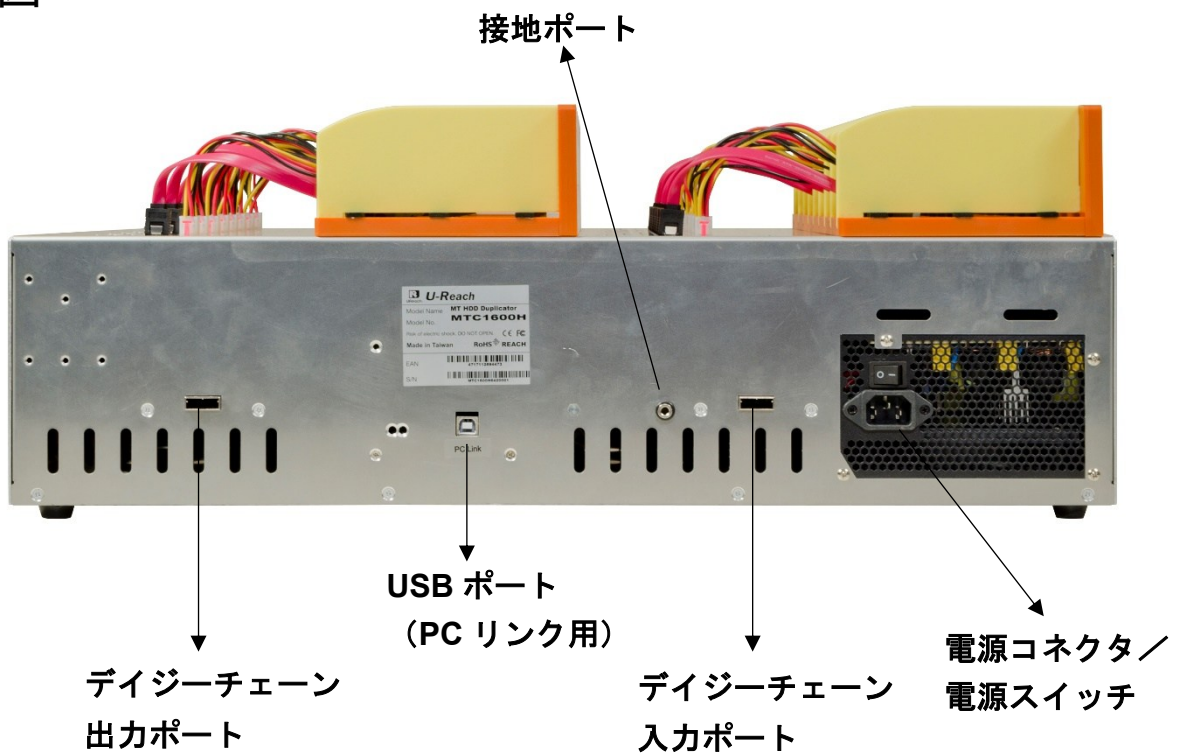
	7.4.4 ログファイルに電子透かし[ウォーターマーク]を追加 (Add Watermark at text File)
	7.5 システム情報の出力 (Export System Info) 現在のシステム詳細情報を含むファイルを作成し、接続されたUSBメモリに出力します。

製品概要

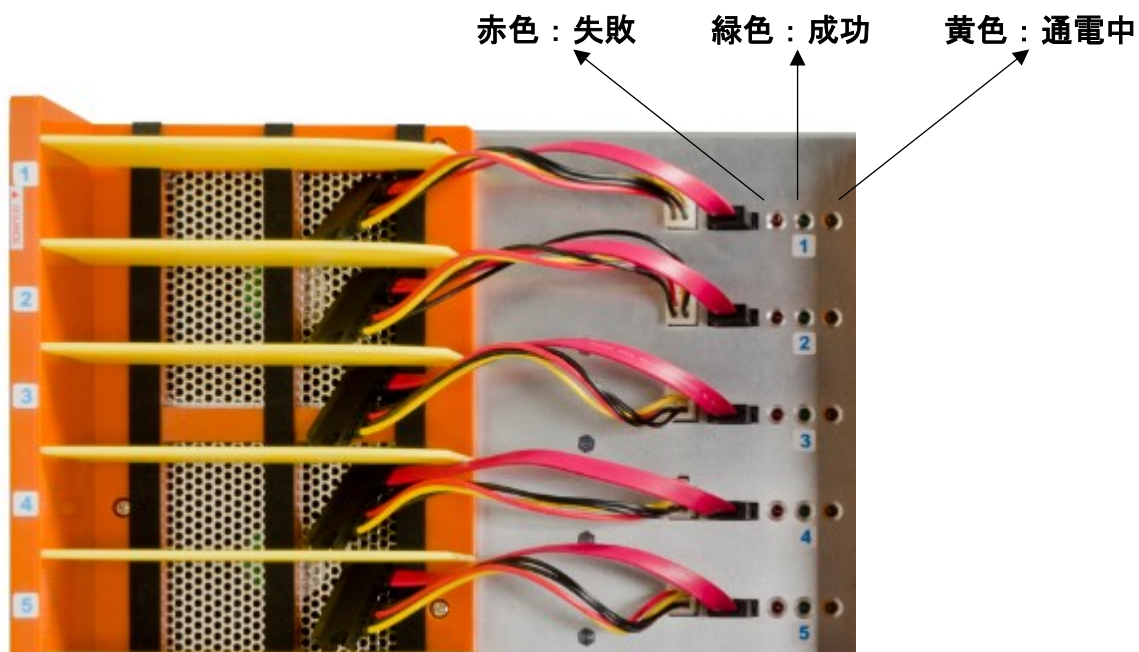
・ 正面図



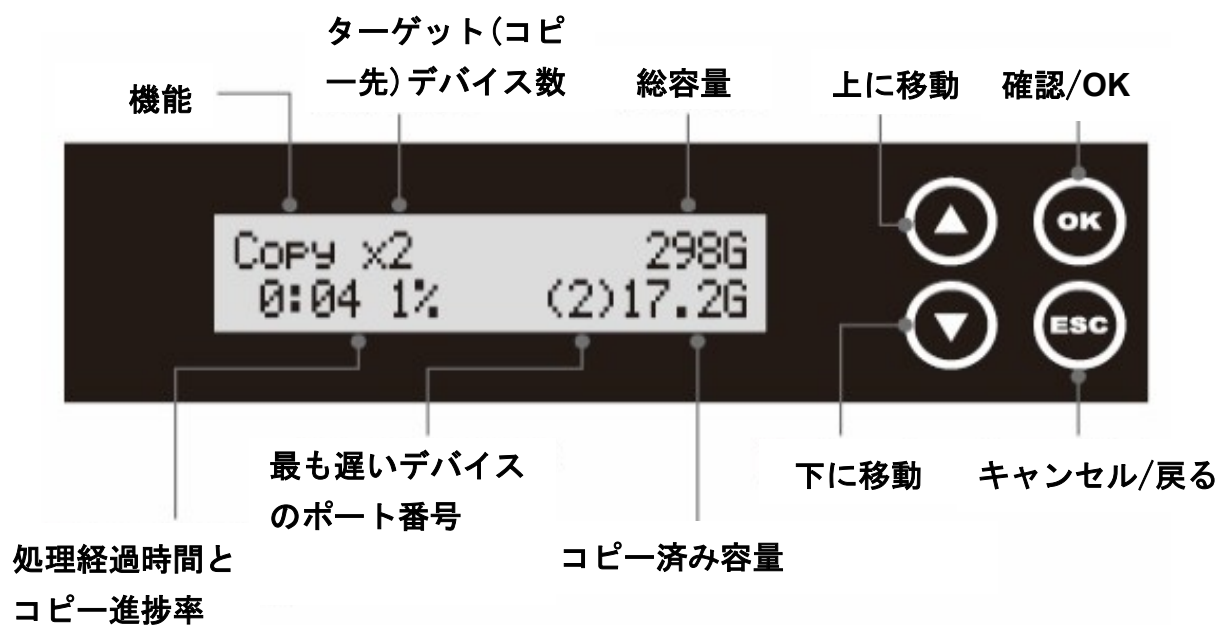
・ 背面図



・ LED インジケータ

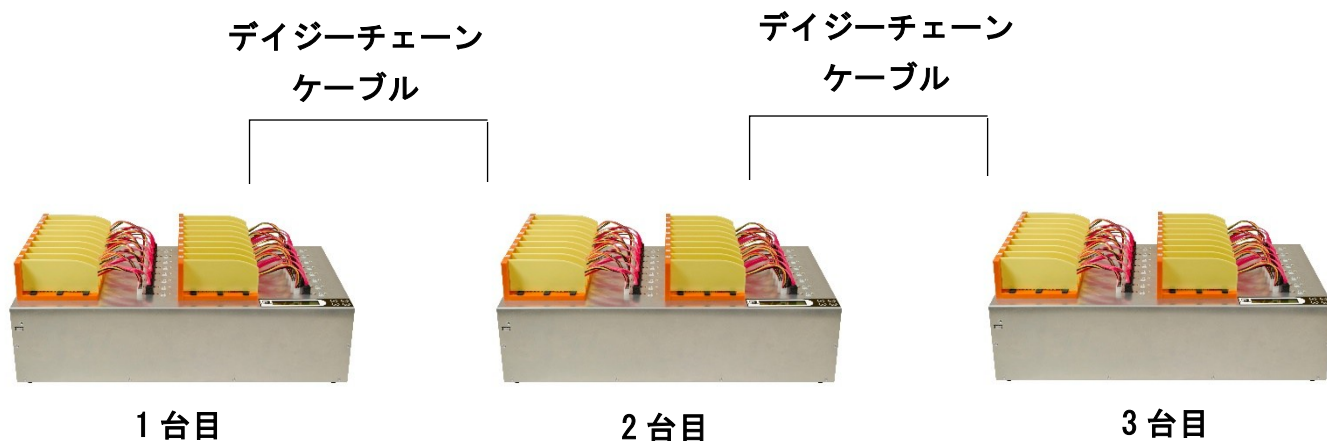


・ LCD ディスプレイ

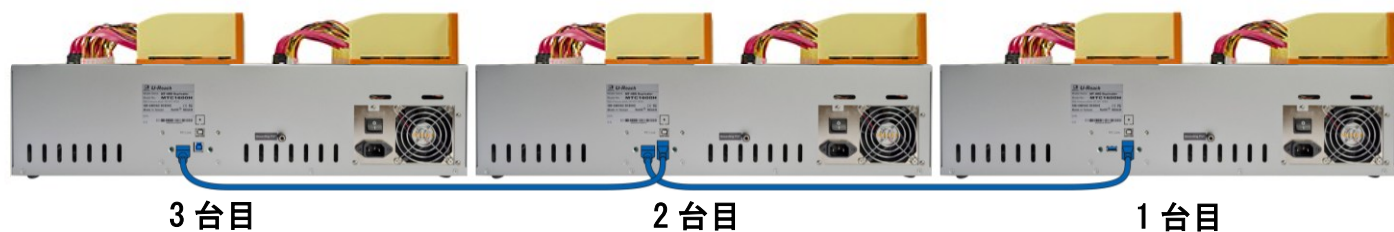


< デイジーチェーン接続（MTCシリーズのみ利用可） >

- 正面図



- 背面図



注記

デイジーチェーン接続が成功すると、接続された2台目以降のユニットはLCD画面に「Networked Duplicator」と表示され、操作ボタンが無効になります。

機能説明

1. コピー (Copy)

Step 1: コピー元デバイスとコピー先デバイスを用意します。

注記

コピー先デバイスの容量はコピー元デバイスの容量と同じ、またはそれより大きい必要があります。

Step 2: コピー元デバイスをソースポート (ポート#1) に、コピー先デバイスをターゲットポート (ポート#2 以降) に、それぞれ挿入します。

Step 3: コピーを進めます。

スクロールして「1. コピー」を選択し、「OK」を押してコピーを開始します。

注記

稼働中/接続中のコピー先デバイスの数が LCD ディスプレイに表示されます。「OK」を押して開始します。

下記はコピー中にLCDディスプレイに表示される情報です。

	機能	総データ量
Copy	40.0G	
3ready		
	Copy x3	40G
	1:38 25%	(4) 10.3G
	経過時間と 進捗率 (%)	最も遅い ポート コピー済 データ量

注記

- ▲▼ボタンを5秒間同時に押すと、最も動作の遅いポートが停止します。
- 「ESC」を5秒間押すとすべてのコピー動作が停止します。

警告

手動でコピーを停止した後は必ず機器を再起動してください。

Step 4: コピー完了です！

コピーが完了すると、成功・失敗したコピー先デバイスの数、所要時間、CRC64 値が LCD ディスプレイに表示されます。

```
Pass:3  Fail:0  8:00  
CRC:7073923CEBDF7B58
```

注記

CRC64 について：

コピー中、各ポートは、書込データの記録と、コピー元・コピー先の間における CRC64 値の比較を同時に行います。比較結果は LED インジケータで表示されます。（緑色：一致、赤色：不一致）

2. コンペア（Compare）

コンペア機能は、コピー結果の正確性を比較検証します。

スクロールして「2. Compare」を選択し、「OK」を押して検証プロセスを開始します。

注記

稼働中/接続中のコピー先デバイスの数が LCD ディスプレイに表示されます。「OK」を押して開始します。

3. コピー+コンペア（Copy+Compare）

コピーとコンペアを続けて自動的に行うモードです。

スクロールして「3. Copy+Compare」を選択し、「OK」を押してコピー+コンペアを開始します。

4. ショウキョ（Erase）

消去には 8 種類のモードがあります。

HDD の廃棄または再利用の場合に応じて、適切な消去方法を選択してください。

警告

デバイスのデータが消去されますので、この機能を使用する前に重要なデータは必ずバックアップしてください。

Step 1: 消去するデバイスを本体のターゲットポートに接続します。

注記

ソースポートはデータ保護のため、初期設定では消去機能が使用できない設定になっています。ソースポートでも消去を実行したい場合は「6.8.2 Erase Source Port」を「Enable」（有効）に設定してください。

Step 2: 消去モードを選択し、消去を実行します。

スクロールして「4. Erase」を選択し OK ボタンを押すと、消去モードの選択画面になります。8種類のいずれかの消去モードを選択してから、再度 OK ボタンを押して、消去を実行します。

注記

- 消去中に、▲▼ボタンを押すと、ポート番号順に、各ポートの表示を切り替えることができます。
- さらに「OK」を押すと、各ポートの詳細な消去状況（転送速度表示、進捗度）を確認できます。

4.1 クイック消去（Quick Erase）

デバイスのインデックステーブルのみを消去します。最も高速な消去方法ですが、実際のデータは残り、インデックス（索引）のみを消去することにご注意ください。

4.2 フル消去（Full Erase） ※ NIST Clear レベル

NIST 800-88 規格（Clear レベル）に従って、全領域のセクタに 1 回上書きして、データを完全に消去します。

4.3 DoD 消去（DoD Erase）

DoD 5220.22-M 規格に準拠して、全セクタに対して、固定値 0x00⇒固定値 0xFF⇒ランダム値、の順に合計 3 回上書きしてデータを消去します。

4.4 DoD 消去+コンペア（DoD EraseComp）

まず、DoD 5220.22-M 規格に準拠してデバイス全体を 3 回上書き消去します。そして、消去が完了すると、引き続き、上書きされたランダム値が正しく書き込まれているかどうか、本体の消去データベースと比較検証を行います。

4.5 7回消去（7-Pass Erase）

DoD 5220.22-M 規格に準拠して、固定値 0x00⇒固定値 0xFF⇒ランダム値⇒ランダム値⇒固定値 0x00⇒固定値 0xFF⇒ランダム値、の順に合計 7 回上書きしてデータを消去します。7 回消去は、フル消去の 7 倍の時間がかかります。

4.6 セキュア消去（Secure Erase）※ NIST Purge レベル

NIST 800-88 規格（Purge レベル）に準拠した国際的に高水準のセキュア消去機能です。デバイス内部の消去コマンドを利用して消去し、全セクタを“00”で上書きします。HPA（ホスト保護領域）、DCO（装置構成オーバレイ）など読込不可データ領域も一括消去できます。

4.7 エンハンスドセキュア消去（Enhanced Secure Erase）

セキュア消去よりも高度な消去モードです。デュプリケーターからはアクセス出来ない交替用セクタを含めて、デバイス全体を完全に消去します。代替セクタが発生している SSD の消去到有効です。

注記

Secure Erase/Enhanced Secure Erase は SATA 仕様のコマンドですが、全ての SATA デバイスに対応しているわけではありません。対応していないデバイスが検出された場合、LCD ディスプレイには「Not Support!」と表示されます。

警告

Secure Erase/Enhanced Secure Erase の途中で処理が中断されてしまうと、消去対象のデバイスがロックされ、使用できなくなります。その場合は、再度 Secure Erase/Enhanced Secure Erase を実行し、処理が完了するまでお待ちください。

4.8 米陸軍 AR380-19 消去（US Army AR 380-19）

米陸軍 AR380-19 方式で、全セクタに対して、ランダム値⇒固定値 0x00⇒固定値 0xFF の順に合計 3 回上書きしてデータを消去します。そして、消去が完了すると、引き続き、上書きされたランダム値が正しく書き込まれているかどうか、本体の消去データベースと比較検証を行います。

5. ユーティリティ (Utilities)

このメニューには、ポートに接続されたデバイスの情報、デュプリケーター本体のシステム情報、ファームウェアアップデートに関するサブメニューが表示されます。

スクロールして「5. ユーティリティ」を選択し、「OK」を押してサブメニューを表示します。

5.1 デバイス情報の表示 (Show Device Info)

この機能は、デバイスの型番、ファームウェアバージョン、容量などの基本情報を表示します。

スクロールして「5.1 Show Device Info」を選択し、「OK」を押して、接続されたデバイスを表示します。次に、↑↓ボタンを押して接続されているデバイスをポート番号順に表示します。

5.2 システムアップデート (System Update)

Step 1: アップデート用 USB メモリの準備

USB メモリを PC に接続します。最新のファームウェアをダウンロードし、BIOS ファームウェアを解凍してから、USB メモリのルートディレクトリに保存します。

注記

- USB メモリは FAT16 または FAT32 形式でフォーマットされている必要があります。
- USB メモリに不良セクタがないことを確認してください。

Step 2: ファームウェアアップデートの実行

ファームウェアを保存した USB メモリをデュプリケーターの背面にある USB ポートに接続します。スクロールして「5.2 System Update」を選択し、「OK」を押して、ファームウェアのアップデートを開始します。

警告

ファームウェアのアップデートには5分以上かかる場合があります。アップデート中は、絶対に、電源を切ったり、プロセスを中断したりしないでください。アップデートのプロセスが中断されると、デュプリケーターのシステムが使用できなくなります。当社は、これに起因するいかなる損害について責任を負いません。

5.3 システム情報の表示 (System Info)

デュプリケーター本体のコントローラー、型番、ファームウェアバージョンなどのシステム情報を表示します。スクロールして「5.3 System Info」を選択し、「OK」を押してシステム情報を表示します。

5.4 HDD 検証 (Verify HDD)

読み取り書き込みによりデバイスをスキャンして、不良セクタを検出します。

スクロールして「5.4 Verify HDD」を選択し、「OK」を押すとプロセスが開始されます。

処理中に▲▼ボタンを押すと、ポート番号順に、各ポートの表示を切り替えることができます。

5.5 厳密な HDD 検証 (Strict Verify HDD)

読み取り書き込みを2回おこないデバイスをスキャンして、不良セクタを検出します。

スクロールして「5.5 Strict Verify HDD」を選択し、「OK」を押すとプロセスが開始されます。

処理中に▲▼ボタンを押すと、ポート番号順に、各ポートの表示を切り替えることができます。

6. セッテイ (Setup)

このメニューでは、本体の各設定を行います。

スクロールして「6. セッテイ」を選択し、「OK」を押してサブメニューを表示します。

6.1 スタートアップメニュー (Start-up Menu)

電源投入時に最初に表示されるメニューを設定します。

スクロールして「6.1 Start-up Menu」を選択し、「OK」を押します。次に、電源投入直後最初に表示される機能メニューを設定します。標準では「1. コピー」が選択されています。

6.2 コピーモード (Copy Area)

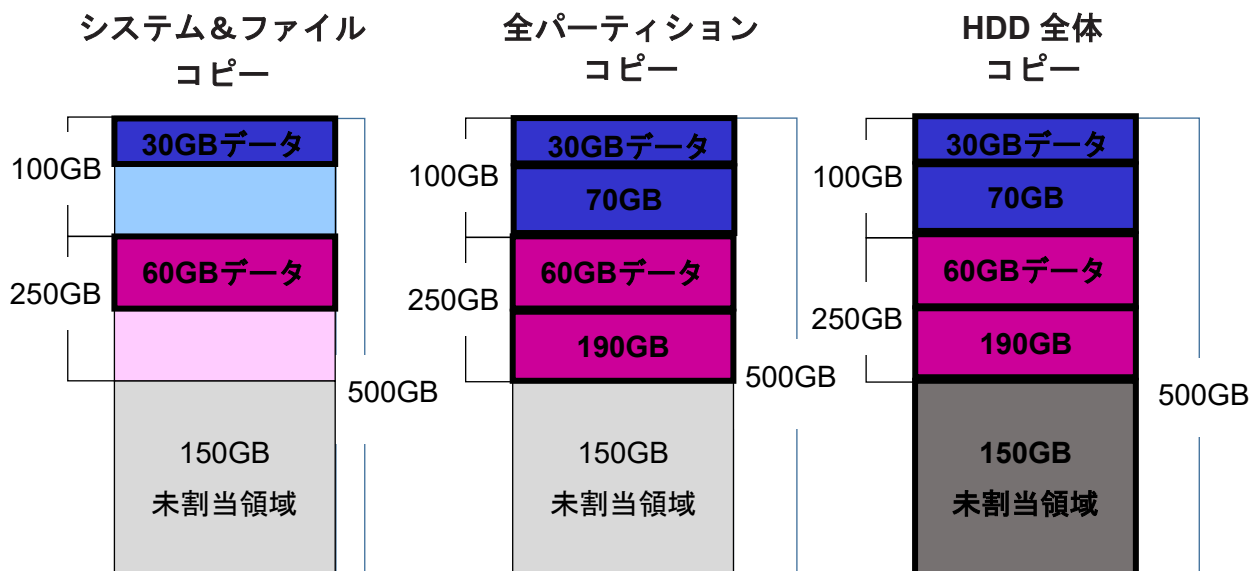
本製品には5種類のコピーモードがあります。

スクロールして「6.2 Copy Mode」を選択し、「OK」を押します。次にスクロールして、5つのコピーモードのいずれかを選択します。

● 適切なコピーモードの選択

適切なコピーモードを使用すると、操作時間を大幅に短縮し、効率を高めることができます。

例：500GB デバイスに2つのパーティションが定義されています。以下のチャートは、それぞれのコピーモードにおいてコピーされる領域を示しています。（濃色・太文字・太枠内の領域がコピーされます。）



データのみを分析してコピーし、空き領域をスキップします。

データの有無に関わらず定義されたパーティション内のすべての領域をコピーします。

デバイス全体をコピーします。

● コピーおよびコンペアの準備

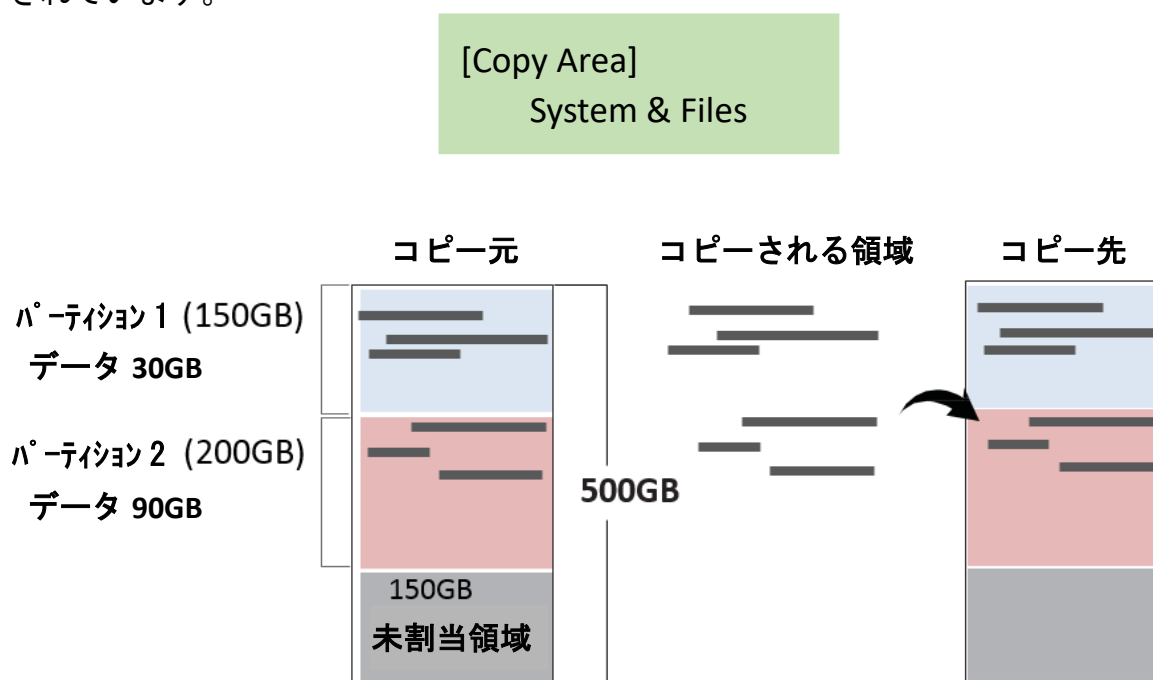
コピーを始める前に、次の設定を考慮してください：

- 6.2 コピーモード (Copy Area)
- 6.4 不良セクタのスキップ (Skip Bad Sectors)
- 6.5 転送速度下限値設定 (Minimum Speed)
- 6.6 コピー元デバイス転送速度下限値設定 (Check Source Minimum Speed)
- 6.8.1 不明なフォーマット (Unknown Format)
- 6.8.7 HPA 領域コピーモード (HPA Copy Mode)

① システム&ファイルコピー (System and Files)

データのみをコピーし、空き領域をスキップします。標準フォーマットのみをサポートします。スクロールして「6.2 Copy Area ⇒ System and Files」を選択し、「OK」を押して、コピーモードを保存します。

このコピーモードでは、デバイス全体ではなく、コピー元デバイスのシステムとファイルのみコピー可能です。システムはコピー元デバイスを分析し、コピーするデータ領域を特定します。コピー元デバイスのデータがターゲットデバイスの容量内に収まる場合、コピーが処理されます。このコピーモードでは、FAT16/32/64、NTFS、EXT2/EXT3/EXT4/lvm、HFS/HFS+/HFSX がサポートされています。

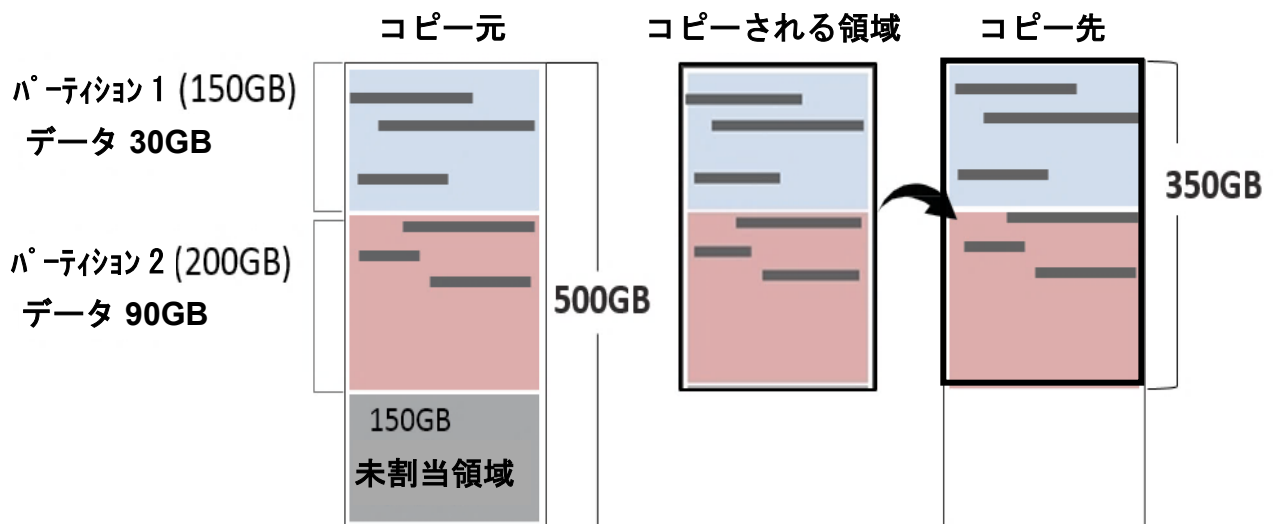


120GB のデータ領域のみコピーされます。

② 全パーティションコピー (All Partitions)

データの有無に関わらず、未割り当て領域を除くすべてのパーティション領域をビット単位でコピーします。スクロールして「6.2 Copy Area ⇒ All Partitions」を選択し、「OK」を押して、コピーモードを保存します。コピー先デバイスの容量は、コピー元デバイスの容量より大きくなければなりません。

[Copy Area]
ALL Partitions

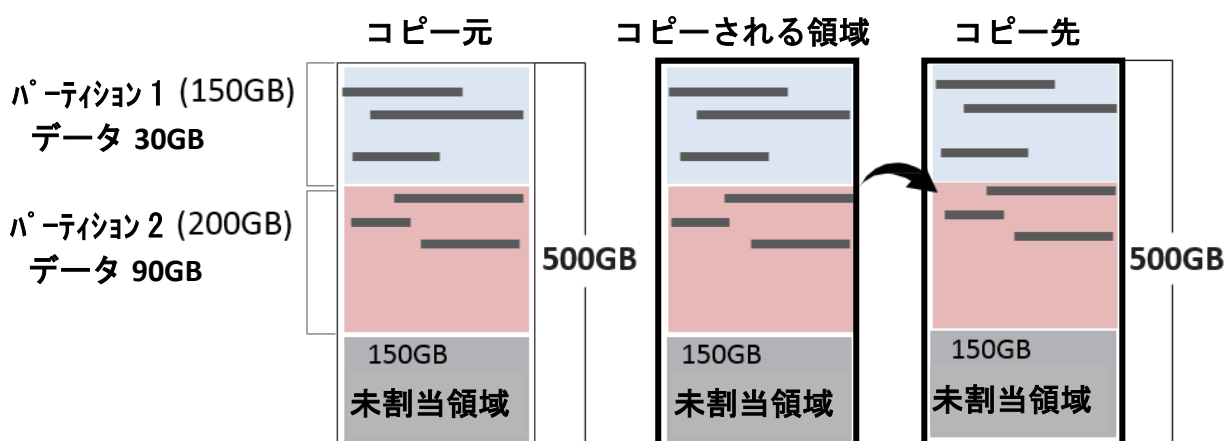


350GB の全パーティション (150GB+200GB) がコピーされます。

③ HDD 全体コピー (Whole HDD)

データ、パーティション、未割り当て領域に関係なくデバイスのすべての領域をビット単位でコピーします。スクロールして「6.2 Copy Area ⇒ Whole HDD」を選択し、「OK」を押して、コピーモードを保存します。このモードでは、データは分析されません。

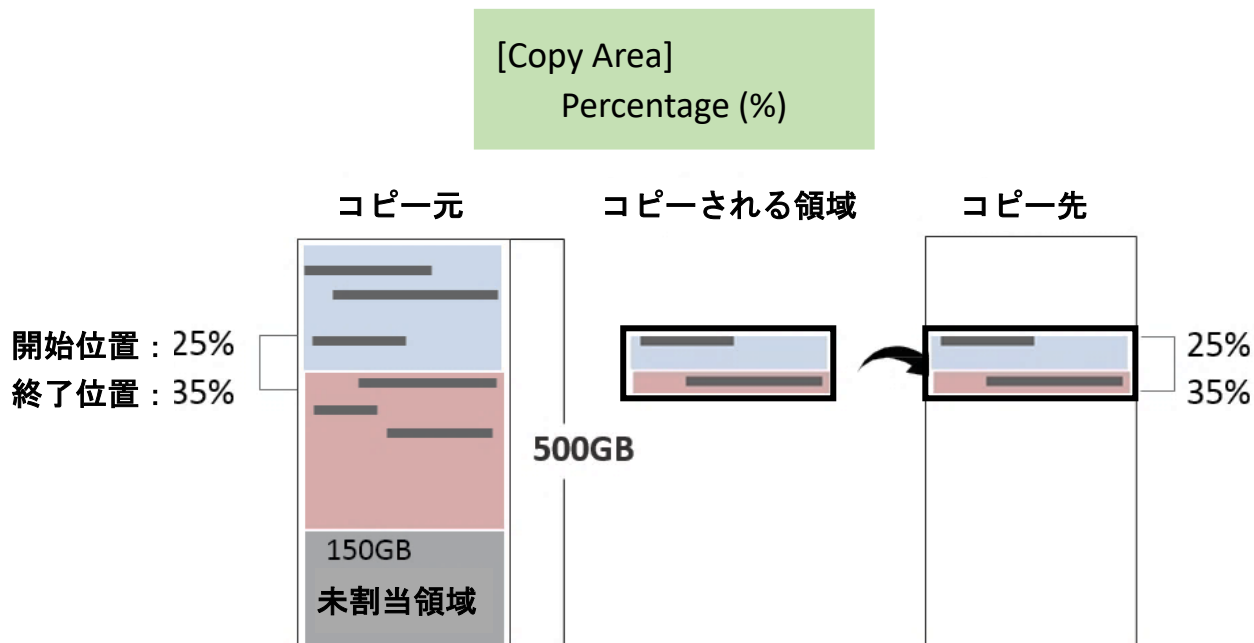
[Copy Area]
Whole HDD



500GB の HDD 全体がコピーされます。

④ パーセンテージ (%) コピー (Percentage (%))

コピー元デバイスからコピーされる範囲の開始位置と終了位置をパーセンテージで指定してコピーします。スクロールして「6.2 Copy Area ⇒ Percentage」を選択し、「OK」を押して、コピーモードを保存します。指定された領域のみコピーし、他の領域やデータはコピーしません。コピー時間は、HDD の転送速度によって左右されます。



指定された領域（開始位置 25%～終了位置 35%）のみコピーされます。

⑤ カスタムデータコピー (Custom Data Copy)

このコピーモードは、特殊なフォーマットデバイス进行处理するように設計されています。デバイス全体を分析し、データ領域をコピーします。コピーする前に、コピー先デバイスを完全に消去する必要があります。スクロールして「6.2 Copy Area ⇒ Custom Data Copy」を選択し、「OK」を押して、コピーモードを保存します。

注記

「カスタムデータコピー」は、コピー前にデバイス全体の容量を分析するため、時間がかかります。

警告

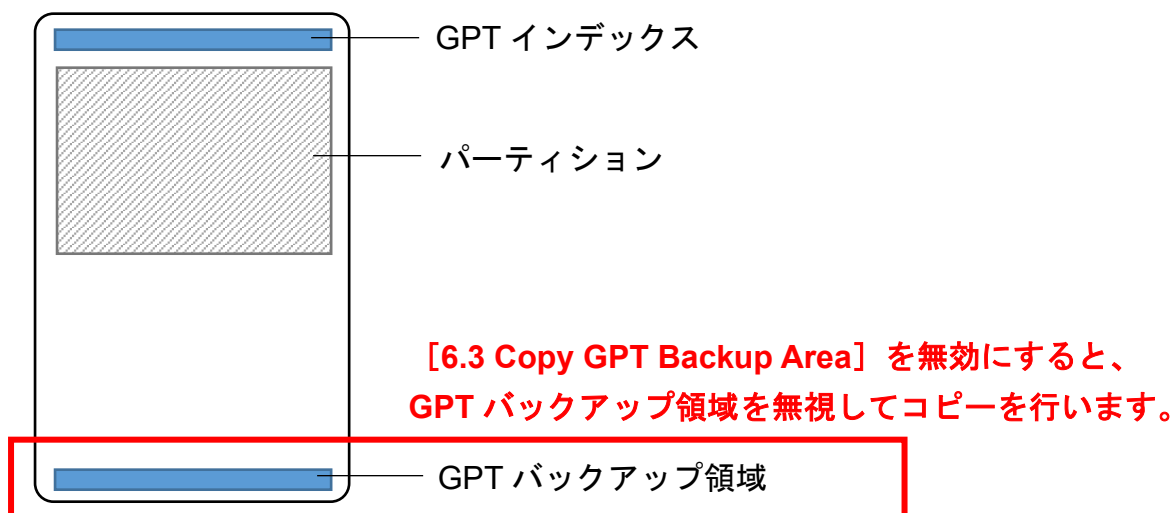
- データ分析にかかる時間を短縮するために、コピー元デバイスには、クリーンアップされた不要なデータのないものをご使用ください。
- コピー先デバイスは、新しいものを使用するか、コピー前に完全に削除しておく必要があります。コピー先デバイスにデータが残っている状態でコピーすると、データ結合のリスクがあります。

6.3 GPT バックアップ領域のコピー (Copy GPT Backup Area)

この機能を「Disable」(無効)に設定すると、デュプリケーターは、GPT バックアップ領域を無視するため、大容量デバイスから小容量デバイスへのコピーが可能になります。

注記

コピー元デバイスのパーティションサイズは、コピー先デバイスの容量より小さくする必要があります。そうでない場合は、GPT バックアップ領域をそのままにしておくことをお勧めします。



警告

この機能を無効にすると、コピー先デバイスが次回の Windows の再起動時に GPT バックアップエリアを再構築します。Linux の場合、gdisk コマンドを用いて GPT バックアップ領域を再構築することが可能です。

6.4 不良セクタのスキップ (Skip Bad Sectors)

コピー/コンペア中にコピー/コンペア元デバイスに不良セクタがあった場合でも、設定した不良セクタ数の許容範囲内で不良セクタをスキップします。

スクロールして「6.4 Skip Bad Sectors」を選択し、「OK」を押して、スキップ許容可能な不良セクタ数を選択します。デバイスデータが重要であり、完全なコピーを行う必要がある場合は、「Skip Bad Sectors」を「0」に設定することをお勧めします。スキップする不良セクタ数は「Unlimited」(無制限)または 0~65,535 の値に設定できます。

[Skip Bad Sectors]
1000

警告

コピーの正確性を高めるために、「コピー+コンペア」機能の使用をお勧めします。

6.5 転送速度下限値設定 (Minimum Speed)

コピー/コンペア/消去中における転送速度下限値を設定したり無効にしたりすることができます。処理中に、いずれかのデバイスの速度が設定した下限値を下回った場合、赤色 LED が点灯して該当のデバイスの処理を中断しエラーとします。

転送速度下限値は 10MB/秒、20MB/秒～300MB/秒の範囲で 20MB 刻みで設定可能です。転送速度下限値の設定を無効にする場合は、「Don't Care (無視)」選択すると、転送速度が遅くても処理を続行します。

注記

- 転送速度下限値を設定する場合には、必ずドライブの転送速度上限値よりも低い数値に設定して下さい。
- ドライブの転送速度が不明な場合は転送速度下限値の設定を行わず、無視する設定を選択して下さい。

6.6 コピー元デバイス転送速度下限値設定 (Check Source Minimum Speed)

6.5 Minimum Speed で設定した転送速度下限値設定を、ソースポートのコピー元デバイスにも適用するのかどうか選択します。適用する場合は「Enable」(有効)、適用しない場合は「Disable」(無効)を選択します。

6.7 言語 (Language)

本体の LCD ディスプレイに表示される言語を選択します。英語、日本語、スペイン語から選択可能です。スクロールして「6.7 Language」を選択し「OK」を押してから、↑↓ボタンで表示言語を設定します。

6.8 ショウサイセッテイ (Advanced Setup)

この機能には、コピーおよび消去機能を微調整するための設定が含まれています。

スクロールして「6.8 ショウサイセッテイ」を選択し、「OK」を押して、サブメニューを表示します。

6.8.1 不明なフォーマット (Unknown Format)

本設定は、システム&ファイルコピーでコピーを行う際のみ有効です。

スクロールして「6.8.1 Unknown Format」を選択し、「OK」を押してから、↑↓ボタンで2つの設定のいずれかを選択します。

不明なフォーマットには、本デュプリケーターが認識できないあらゆるデータおよびパーティションのフォーマットが含まれます。

① 不明なフォーマットをコピー (Copy Unknown)

不明なフォーマットをコピーします。コピー元デバイスに不明なフォーマットが存在する場合、コピーモードは自動的にデバイス全体コピーに変更されます。スクロールして「6.8.1 Unknown Format > Copy Unknown」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

② 不明なフォーマットをスキップ (Skip Unknown)

不明なフォーマットをスキップします。

スクロールして「6.8.1 Unknown Format > Skip Unknown」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

6.8.2 ソースポートの消去 (Erase Source Port)

ソースポートに接続したデバイスの消去を、「Enable」(有効)または「Disable」(無効)に設定することができます。デフォルトでは、データ保護の観点から、ソースポートに接続したデバイスの消去ができないよう無効になっています。

スクロールして「6.8.2 Erase Source Port」を選択し、「OK」を押します。次にスクロールして、2つの設定のいずれかを選択します。

① 無効 (Disabled)

ソースポートは消去できません。

スクロールして「Disable」(無効)を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

② 有効 (Enabled)

ソースポートは消去できます。

スクロールして「Enable」(有効)を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

6.8.3 消去パターン (Erase Pattern)

消去時における消去パターンを設定します。スクロールして「6.8.3 Erase Pattern」を選択し、「OK」を押します。次にスクロールして、2つの設定のいずれかを選択します。

① 1バイト (One Byte)

ランダムに生成された1バイト長のデータで繰り返し上書きされます。

スクロールして「One Byte」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

② ビッグランダムデータ (Big Random Data)

ランダムに生成された大きなデータで繰り返し上書きされます。

スクロールして「Big Random Data」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

注記

「6.8.4 Skip Bad Sector at Erase」の値を1以上に設定した場合

- ・ 赤色 LED 点灯：消去ジョブ失敗、または、不良セクタ数が設定値をオーバー
- ・ 緑色 LED 点灯：消去ジョブ完了、不良セクタ数ゼロ
- ・ 赤色 LED+緑色 LED 点灯：消去ジョブ完了、不良セクタ数は設定値の範囲内

6.8.4 消去時の不良セクタスキップ (Skip Bad Sector at Erase)

消去時に不良セクタをスキップします。スキップを許容する不良セクタの数は、無制限または0~65,535の値に設定できます。デフォルト設定は「0」です。

スクロールして「6.8.4 Skip Bad Sector at Erase」を選択し、「OK」を押して、スキップする不良セクタ数を選択します。

6.8.5 処理開始待機時間 (Device Power-up)

OK ボタンを押してからコピー・消去などの処理が開始されるまでの待機時間を設定します。

コピー・消去などを始める際、OK ボタンを押すと HDD が起動され、「6.8.5 Device Power-up」で設定した待機時間（たとえば30秒）が経過すると、処理が開始されます。

スクロールして「6.8.5 Device Power-up」を選択し、「OK」を押してから、↑↓ボタンで待機時間を5秒~99秒の範囲で設定します（デフォルトでは30秒に設定）。そして、「OK」を押して確定します。

6.8.6 キーロック設定 (Scroll Lock)

作業中の誤操作を防止するため、↑↓ボタンをロックすることが可能です。

スクロールして「6.8.6 Scroll Lock」を選択し、「OK」を押して、キーロックを無効または有効に設定します

① ↑↓ボタンをロックしない (Do NOT Lock Key)

電源を入れると、↑↓ボタンを通常通り操作できます。

スクロールして「Do NOT Lock Key」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

② ↑↓ボタンをロックする (Do Lock Key)

電源を入れると、OK ボタンと ESC ボタンは使用できますが、↑↓ボタンはロックがかかって使用不可能になります。

スクロールして「Do Lock Key」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

6.8.7 HPA 領域コピーモード (HPA Copy Mode)

スクロールして「6.8.7 HPA Copy Mode」を選択し、「OK」を押して、サブメニューを表示します。デフォルト設定は「Copy and Setting」(コピーと設定)です。

① HPA 領域をコピーしない (Do Not Copy HPA)

このメニューには、ユーザーが選択できるサブメニュー設定が含まれています。

スクロールして「HPA Copy Mode >> Do Not Copy HPA」を選択し、「OK」を押して、サブメニュー設定を表示します。

■ コピー先デバイスの HPA 領域を維持 (Keep Target HPA)

HPA 領域内のデータをコピーせず、コピー先デバイスの元の HPA 設定を保持します。

スクロールして「Keep Target HPA」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

■ コピー先デバイスの HPA 領域を削除 (Clear Target HPA)

HPA 領域内のデータをコピーせず、コピー先デバイスの HPA 設定を削除します。

スクロールして「Clear Target HPA」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

② HPA 領域の設定のみコピー（Setting Target HPA）

HPA 領域の設定のみをコピー元デバイスからコピー先デバイスにコピーします。

スクロールして「HPA Copy Mode >> Setting Target HPA」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

③ HPA 領域の設定とデータをコピー（Copy and Setting）

HPA 領域の設定およびデータをコピー元デバイスからコピー先デバイスにコピーします。

スクロールして「HPA Copy Mode >> Copy and Setting」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

警告

HPA 機能「Copy and Setting」により、ターゲットデバイスの元のパラメーターが変更される場合があります。これをリセットするには、「6.8.8 Clear HPA at Erase >> Clear HPA Setting」を設定し、「4. Erase」を実行する必要があります。

6.8.8 消去時に HPA 領域を削除（Clear HPA at ERASE）

消去中に HPA 領域の設定を削除するように設定します。

スクロールして「6.8.8 Clear HPA at Erase」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

① 消去時に HPA 領域を削除（Clear HPA Setting）

消去時に HPA 領域の設定とデータを削除します。

スクロールして「6.8.8 Clear HPA at Erase >> Clear HPA Setting」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

② 消去時に HPA 領域を維持（Keep HPA Setting）

消去時に HPA 領域の設定とデータを維持します。

スクロールして「6.8.8 Clear HPA at Erase >> Keep HPA Setting」を選択し、「OK」を押して、この設定を保存します。

6.8.9 消去後に消去済マークを追加（Mark After Erase）

消去処理完了後に、デバイスに消去済マークを追加します。

この消去済マークは、「5.1 Show Device Info」を実行した際に、LCD ディスプレイに、消去方式を表す 1 語（QUICK、FULL、DOD、7-PASS、SECURE など）として追加表示されます。

6.8.10 転送速度 (Transfer Rate)

転送速度の設定を行います。

スクロールして「6.8.10 Transfer Rate」を選択し、「OK」を押してから、↑↓ボタンでUDMA2～UDMA7より適切な転送速度を選択します。UDMA7が最も高速です。

(デフォルトではUDMA7に設定)

6.8.11 HDD モーター停止待機時間 (Stop Motor Time)

デュプリケーターが、コピーや消去などの処理が完了してから、HDDのモーター停止を待つて完了画面を表示するまでの、待機時間を設定します。

スクロールして「6.8.11 Stop Motor Time」を選択し、「OK」を押してから、↑↓ボタンでモーター停止時間を1秒～20秒の範囲で設定します(デフォルトでは3秒に設定)。そして、「OK」を押して確定します。

注記

HDDのモーターは、デュプリケーターのシステムが処理を完了してもすぐには停止しません。この機能は、確実に、HDDのモーターが停止するのを待つてから完了を表示することで、HDDに潜在的な損傷が発生するのを防ぎます。

6.8.12 コマンドあたりの転送バイト数 (Bytes Per Cmd)

デュプリケーターとHDDの間でのデータ転送における、1回のコマンドあたりの転送サイズを設定します。512Byte～16MBの範囲で値を設定できます。

6.8.13 コピー後デバイス署名を削除 (Delete Device Signature After Copy)

コピー元デバイスに記録されているディスク署名をコピー後に削除するか保持するかを設定します。「Yes」に設定すると、ディスク署名部分をコピーしません。

この機能はWindows専用です。同じディスク署名で2台以上を接続した場合、Windowsは1台のデバイスのみを認識します。

警告

「Yes」に設定してディスク署名を削除すると、コピー先デバイスはコピー元デバイスと異なる記録内容となるため、コンペアが通らずにFail(失敗)となります。コンペアによる確認を行っている場合は併用できなくなりますのでご注意ください。

6.8.14 コピー前にコピー先デバイスを消去（Clean SSD Before Copy）

コピー実行の前にコピー先デバイスを消去するように設定します。

デフォルト設定は「No」（いいえ）です。

6.9 デフォルトに戻す（Restore Defaults）

すべての設定項目を工場出荷時設定に戻します。

スクロールして「6.9 Restore Defaults」を選択し、「OK」を押して、工場出荷時設定に戻します。

7. ログマネージャー (Log Manager)

ログレポート管理ツールを使用して、コピープロセス全体を監視、記録、管理することができます。各ポートの詳細情報を表示することで、最も遅い書き込みデバイスを特定し、効率的な運用を維持するのに役立ちます。

I. ログレポートの見方

Print Date : 2016-03-09 13:35:33

Machine Model : HDD Dupe 1-15 (HD3464)
Machine Version : 2.36.0
Machine ID : 34640.13784.18562.64424.36864
Start No. Date : 2016-02-09
End No. Date : 2016-03-09

Job: COPY

Time Start: 2016-02-24 13:12:24
End: 2016-02-24 13:16:05

このログレポートの背景情報
(処理モード、処理開始時間・終了時間)

Source HDD Model : HGST HTS725050A7E630
Version : GH20A420
Serial Number : TF0500WE00D93V
Capacity : 465.7GB(976773168 sectors)
Data Size : 23.6GB(49581335 sectors)

コピー元 HDD 情報

copy Area : System and Files
CRC-64-ECMA-182 : D2970AB76F250409

コピーモードの種類、CRC64 値

Quantity Total: 3
Pass: 3
Fail: 0

処理結果 (Total : 総数、Pass : 成功した数、Fail : 失敗した数)

[Pass Record]	日付	時刻	所要時間	型番	リビジョン
ポート番号	Port:02,	2016-02-24 13:12:24	(221 seconds)	[HGST HTS725050A7E630]	[GH20A420]
	Port:03,	2016-02-24 13:12:24	(221 seconds)	[HGST HTS725050A7E630]	[GH20A420]
	Port:04,	2016-02-24 13:12:24	(220 seconds)	[HGST HTS725050A7E630]	[GH20A420]

シリアル番号	容量(セクタ)	書き込み速度	起動時間	電源投入回数
[TF0500WE0083GV] 465.7GB(976773168)	[Write Speed=113.6MB/second]	[power_on_hours=95, power_cycle=1387]	
[TF0500WE007XZV] 465.7GB(976773168)	[Write Speed=113.6MB/second]		
[TF0501WE01PM5Z] 465.7GB(976773168)	[Write Speed=114.1MB/second]	[power_on_hours=140, power_cycle=2614]	

II. ログ出力の方法

USB メモリを用いてログレポートを出力します。ログレポートはテキスト形式と CSV 形式で同時出力されて保存されます。USB メモリを本体前面の USB ポートに接続して、スクロールして「7. Log manager」を選択し「OK」を押して、ログの出力方法を設定します。

注記

- USB メモリは FAT16 または FAT32 形式でフォーマットされている必要があります。
- LCD ディスプレイには、記録されたログの数が表示されます。
(例 : #1-#6 は 6 つのログがあることを意味します。)

7.1 当日のログレポートを出力（Today's Log Report）

当日のログレポートを USB ポート経由で USB メモリに出力します。

スクロールして「7.1 Today's Log Report」を選択し、「OK」を押して、ログレポートを USB ドライブに出力します。

[Log #1- #6]
1. Today's Log Report

7.2 最近のログレポートを出力（Recent Log Report）

最近のログレポート（1～28日）を USB ポート経由で USB メモリに出力します。

スクロールして「7.2 Recent Log Report」を選択し、↑↓ボタンで出力対象とする直近の日数を選択します。選択後「OK」を押して、ログレポートを USB ドライブに出力します。

[Log #1- #6]
2. Recent Log Report

Recent Log Report
Recent 1 day

Recent Log Report
Recent 28 days

7.3 特定期間のログレポートを出力（Custom Log Report）

特定の期間のログレポートを USB ポート経由で USB メモリに出力します。

スクロールして「7.3 Custom Log Report」を選択し、↑↓ボタンで出力対象とする期間の開始日（Start）と終了日（End）を設定します。設定後、「OK」を押して、ログレポートを USB ドライブに出力します。

[Log #1- #6]
3. Recent Log Report

Start: 2025/01/01

Start: 2025/01/01
End: 2025/03/15

7.4 ショウサイキノウ（Advanced Function）

このメニューを操作するためには、保護パスワードが必要になります。

パスワードの初期設定は「123456」になります。

7.4.1 すべてのログを消去（Clear All Logs）

デュプリケーター本体に記録されたすべてのログを消去します。

スクロールして「7.4.1 Clear All Logs」を選択し「OK」を押して、すべてのログを消去します。

警告

PC接続中に本機能を使用する前に、次の手順を必ず守ってください。

1. PC-Linkソフトウェア（LV07B）を閉じる。

または、

2. デュプリケーターをPCから切断する。

※ PC-Link ソフトウェア（LV07B）はログレポートを継続的に記録するように設計されています。LV07B が稼働中にユーザーがデュプリケーターで「ログ記録を消去」を実行すると、LV07B とデュプリケーター間で競合が発生し、重大なシステムエラーを引き起こす可能性があります。

7.4.2 パスワード設定（Setup Password）

パスワードを設定することで、デュプリケーターのログ記録が保護されます。

スクロールして「7.4.2 Setup Password」を選択し「OK」を押して、希望のパスワードを設定します。

注記

パスワードを変更する際は、紛失した場合に備えてパスワードを安全な場所に保管してください。個人のプライバシーに配慮し、メーカーによるパスワードリセットサービスは提供しておりませんのでご了承ください。

7.4.3 本体設定日時の調整（Adjust Clock）

デュプリケーター本体に設定されている日時を調整します。

スクロールして「7.4.3 Adjust Clock」を選択し「OK」を押して、日時を調整します。

7.4.4 ログファイルに電子透かし[ウォーターマーク]を追加 （Add Watermark to text File）

ログレポートに電子透かし [ウォーターマーク] を追加します。電子透かし [ウォーターマーク] を追加することで、ログファイル改ざんチェックプログラム（iSecuLog.exe）で判定を行って、ログファイルの変更を防止することができます。

注記

詳細については、当社の技術チームまでお問い合わせください。


7.5 システム情報の出力（Export System Info）

この機能では、ユーザーがデuplicーターのシステム情報（コントローラー、型番、ファームウェアバージョンなど）を「5.3 System Info」で確認できるだけでなく、記録用としてUSBメモリに.txt データファイルを出力する追加オプションも利用できます。

PC モニタリング機能について


PC モニタリング機能は、コピーの進行状況、テスト結果、操作ログなどの情報を PC 上でリアルタイムに確認できる便利なツールです。このセクションでは、インストールと操作の手順を説明します。

★ PC モニタリングソフトウェアの起動方法

Step 1 : 製品付属の USB から「LV07B」  を PC のデスクトップなどにコピーします。

Step 2 : PC とデuplicーター本体を付属の USB ケーブルで接続します。

Step 3 : デuplicーターの電源を ON にします。

Step 4 : 「LV07B」  をダブルクリックし、ソフトウェアを起動します。

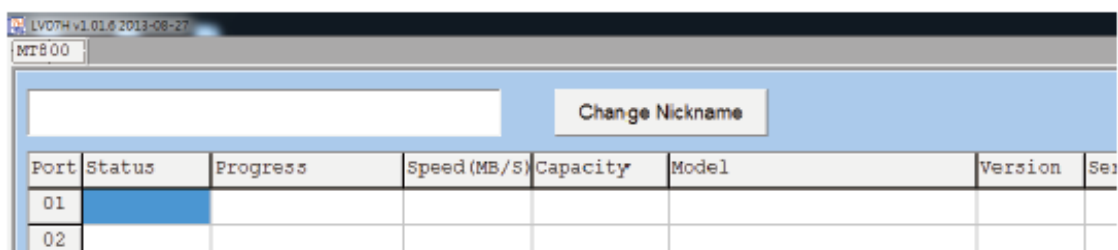


警告

- Step 4 の前に、デuplicーターが完全に起動していることを確認してください。
- LV07B ソフトウェアを起動すると、いくつかの設定ファイルを PC に保存します。必ず、PC にコピーした.exe ファイルを起動してください。製品付属の USB 上から直接ソフトウェアを起動しないでください。

Step 5 : デuplicーターが PC とのリンクに成功し、PC モニタリングソフトウェアが正常に起動すると次の画面が表示されます。

この状態で、PC モニタリングを利用することができます。



Port	Status	Progress	Speed (MB/S)	Capacity	Model	Version	Set
01							
02							

Step 6 : 上の画面が表示されない場合は、Step 1~4 を繰り返してください。

注記

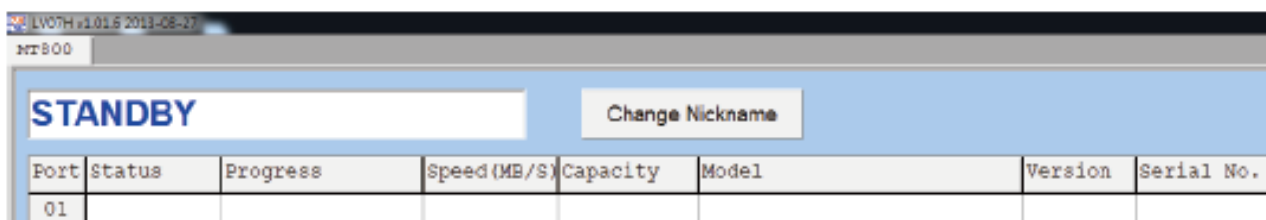
PCモニタリングソフトウェアは必ず「管理者として実行」で起動してください。「管理者として実行」は「LV07B」のアイコンを右クリックすると表示されます。

PC モニタリング機能の使い方

注記

PCモニタリングを行う際は、デュプリケーターに接続するPCは1台のみにしてください。また、同期処理の負荷を軽減するため、そのPCでは他の作業を同時に行わないようにしてください。

Step 1 : デュプリケーターのステータスがオンラインと表示されたら、モニタリング画面を開きます。ステータスが「STANDBY」と表示されていれば、プログラムは使用可能な状態です。



The screenshot shows a software window titled 'LV07H v1.01.0 2013-08-27' with a sub-header 'MT800'. The main area displays 'STANDBY' in a large blue box on the left and a 'Change Nickname' button on the right. Below this is a table with the following columns: Port, Status, Progress, Speed (MB/S), Capacity, Model, Version, and Serial No. The table contains one row with the value '01' in the Port column.

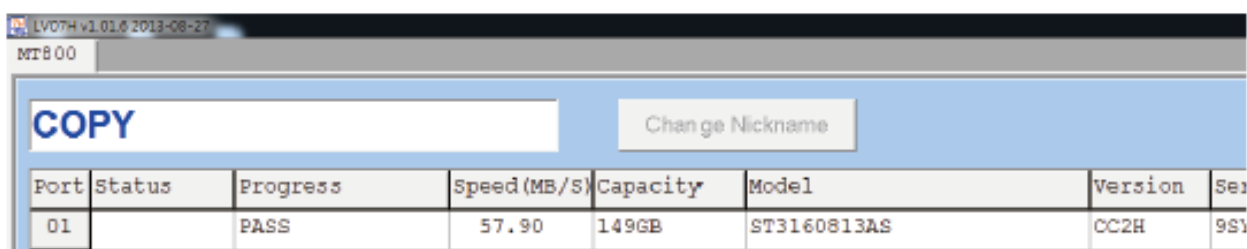
Port	Status	Progress	Speed (MB/S)	Capacity	Model	Version	Serial No.
01							

Step 2 : デュプリケーターでコピー/コンペアを実行します。

コピー元およびコピー先デバイスをデュプリケーターに接続し、タスクを実行すると、プログラムはすべての関連デバイス情報を表示します。PCモニタリング経由で、各デバイスの詳細情報（デバイスモデル、シリアル番号、コピー速度など）を取得し、すべての作業進行状況を記録します。

注記

コピーの実行中、コピー速度は一定ではなく変動します。



The screenshot shows the same software window as in Step 1, but the main area now displays 'COPY' in a large blue box. The table below has updated data for the device at Port 01.

Port	Status	Progress	Speed (MB/S)	Capacity	Model	Version	Serial No.
01		PASS	57.90	149GB	ST3160813AS	CC2H	9S1

Copy Status	Copy Speed	HDD Capacity	HDD Model	FW version	HDD S/N
PASS	57.90	149GB	ST3160813AS	CC2H	9SY1DGKK
PASS	192.47	466GB	ST3500413AS	JC45	5VMTRMPP

Step 3 : コピーが完了すると、プログラムは各デバイスの平均速度を表示します。

Port	Status	Progress	Speed (MB/S)	Capacity	Model	Version
01		PASS	57.90	149GB	ST3160813AS	CC2H
02						

LV07H プログラムを用いたログレポートの出力

すべての作業が完了したら、「ESC」を押してください。LV07H のステータスは「STANDBY」に戻ります。

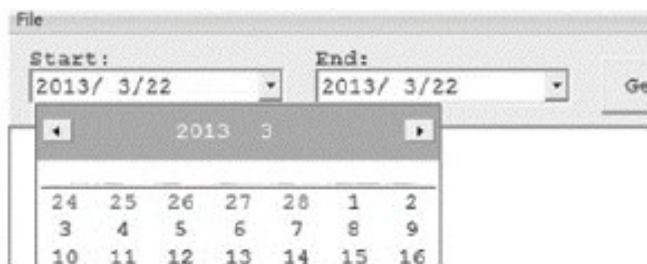
Step 1 : LV07H アプリケーションウィンドウで、「Log Data」画面の「Generate Log Report」をクリックすると、ログ出力の設定画面になります。

Port	Status	Progress	Speed (MB/S)	Capacity	Model	Version	Serial No.
01							
02							
03							
04							
05							

Log Data:	Generate Log Report
0000343 2014-03-05 16:37:02 001 COPY	PASS 149GB ST3160813AS CC2H 9SY1D7792
0000344 2014-03-05 16:37:02 002 COPY	FAIL 466GB ST3500413AS JC45 5VMVDL34
0000345 2014-03-05 16:37:02 008 COPY	PASS 149GB ST3160813AS CC2H 9SY1D7792
0000346 2014-03-05 16:47:21 001 COPY	PASS 466GB ST3500413AS JC45 5VMVDLSW
0000347 2014-03-05 16:47:21 001 COPY	PASS 466GB ST3500413AS JC45 5VMVDLSW
0000348 2014-03-05 16:47:21 002 COPY	PASS 466GB ST3500413AS JC45 5VMVDL34
0000349 2014-03-07 16:01:28 002 FULL ERASE	FAIL 466GB WDC WD5000AAKX-001CA0 15.01H15 WD-WCAYUFP04730

Step 2 : 日付範囲を選択します。

ログレポート出力対象となる日付範囲を選択します。



Step 3 : レポートを作成します。

日付範囲を選択してから、「Generate Report」をクリックしてログレポートを作成します。

デュプリケーターは、デバイスの処理情報を最大 30,000 件まで記録できます。各デバイスの処理はそれぞれ 1 件の記録として保存されます。例えば、1 台のコピー元デバイスから 25 台のコピー先デバイスにコピーを実行した場合、合計 26 件の記録が保存されます。

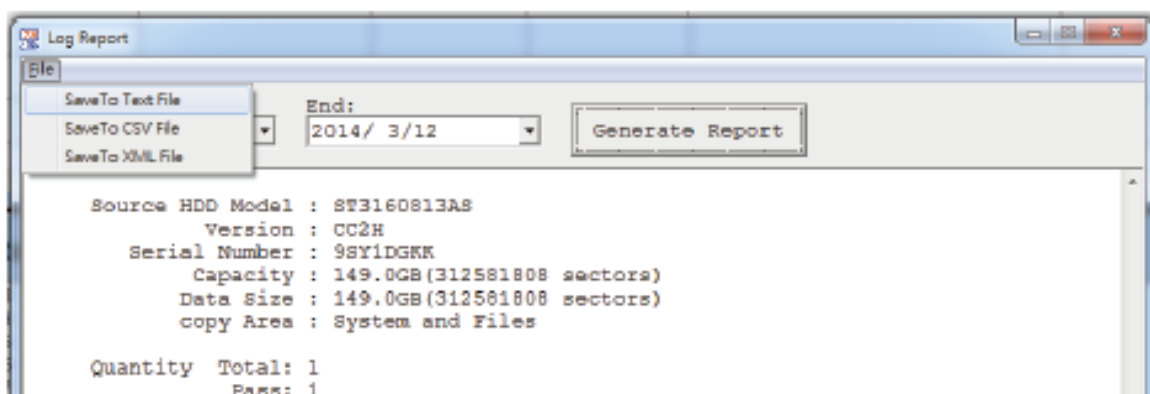
Log Data:		Generate Log Report	
0000343	2014-03-05 16:37:02	001 COPY	PASS 149GB ST3160813AS
0000344	2014-03-05 16:37:02	002 COPY	FAIL 466GB ST3500413AS
0000345	2014-03-05 16:37:02	008 COPY	PASS 149GB ST3160318AS
0000346	2014-03-05 16:47:21	001 COPY	PASS 466GB ST3500413AS
0000347	2014-03-05 16:47:21	001 COPY	PASS 466GB ST3500413AS
0000348	2014-03-05 16:47:21	002 COPY	PASS 466GB ST3500413AS
0000349	2014-03-07 16:01:28	002 FULL ERASE	FAIL 466GB WDC WD5000AAKX-001CA0
0000350	2014-03-10 10:36:56	001 COPY	PASS 466GB ST9500325AS
0000351	2014-03-10 10:36:56	001 COPY	PASS 466GB ST9500325AS
0000352	2014-03-10 10:36:56	003 COPY	PASS 466GB ST3500413AS

注記

選択した日付に記録が存在しない場合、または記録が消去されている場合は、「No match records!」（該当する記録がありません。）と表示されます。

Step 4 : ログレポートをテキストファイルとして保存します。

ログデータ画面の左上から「File」（ファイル）⇒「Save to Text File」（テキストファイルに保存）の順に選択してください。

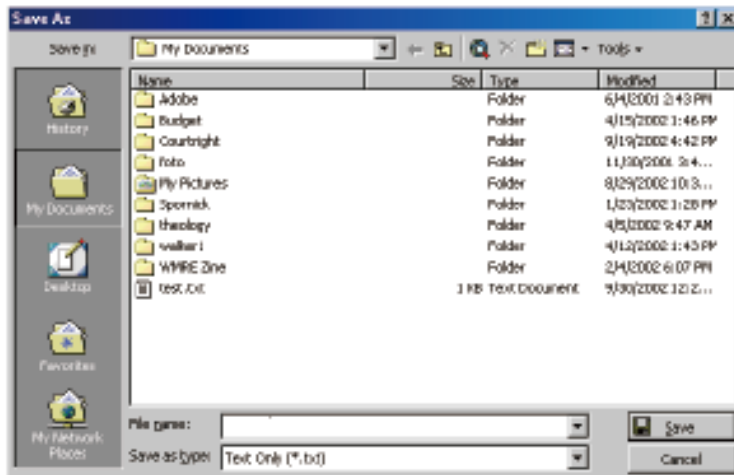


注記

ログレポート保存の際は、以下の4種類のファイル形式から選択できます。
[.txt、.csv、.xml、.pdf]

Step 5 : ログレポートの保存先を指定します。

ログの保存先フォルダとファイル名を指定して保存します。



Step 6 : ログレポートの出力を完了します。

ログの作成と保存が正常に完了すると、指定したフォルダ内にログレポートが保存されます。

注記

一度に最大 30,000 件のログを保存できます。1台のデバイスに関する処理情報は、1件のログとして記録されます。
(例：1台のコピー元デバイスから21台のコピー先デバイスにコピーした場合、22件のログとして記録されます。)

仕様は予告なく変更される場合があります。